

感染症情報 11月14日～20日

府下小児科201医療機関(堺市19)から

①感染性胃腸炎	2671例(堺市 137例)
②溶連菌感染症	401例(堺市 13例)
③おたふくかぜ	332例(堺市 29例)
④RSウイルス感染症	331例(堺市 15例)
⑤手足口病	108例(堺市 8例)

が報告された。

感染症報告数は前週より18.2%増の4,171件であった。報告の第1位は感染性胃腸炎で以下、溶連菌感染症、おたふくかぜ、RSウイルス感染症、手足口病の順であった。

1位の感染性胃腸炎は府下で前週比40%増、堺市では同2.2倍の大幅増であった。2位の溶連菌感染症は府下で前週比10%減、堺市で半減であった。おたふくかぜは府下で16%減、堺市で32%増であった。4位のRSウイルス感染症は府下で14%減、堺市で53%減であった。

インフルエンザは府下で今回268例が報告され、前週の70%増、堺市では前週26例→今回27例であった。いよいよ流行しそうである。マイコプラズマ肺炎の報告数は府下では前週22例から今週30例に、堺市では前週5例であったのが、8例に増えている。流行性角結膜炎(はやり目)は府下で前週28例から今回31例になっている。

麻疹や風疹の報告はなかった。